

安全な国産グリーン社会

コラム S D G S Safety Domestic Green Society

第20回

グリーンの考察と要旨①

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

はじめに

▼はじめに

また新しい年が始まった。戦後80年、2025年である。この間、わが国は直接の戦争を行って

このコラムでは、前回「健全な心情づくりに」について記述したが、今回もその中心になるグリーン社会について、まとめてみたい。

「自ら然る」と書かれる。「自然」はその中にいる存在の「人間」も対象にされ、精神や心情的な思いにも「自然」が意味つけられるようになった。つまり、

GREENの解釈

▼GREENの解釈

SDGSについて、Safety, Domestic, Green, Societyと意味つけたように、Greenについても

「自然」が用いられる。俳句は、自然の有様を詠む。

Globe (地球)

▼Globe (地球)

「地球は青かった。」は、ソ連の宇宙飛行士ガリンが、1961年4月に、ボストーク号で

トランプ大統領の発言で、グリーンランドの名前が話題に上がっている。名前の「グリーンランド」(緑の島)と呼ぶことにより、入植者が増えるようにとの意図があったという。この島は、

Ethics (倫理)

▼Ethics (倫理)

最近では、地域や国を超えて、国際的な関わりが、暮らしや憩いを提供することになった。その担い手が、デジタルや

自然は、「しぜん」と読むが、「しぜん」とも読まれる。「自」は、始まりという意味であり、英語ではfromで、発に当たる。電車の時刻表でも、かつては発駅・発時刻を表すのに「自東京12:30」などと表記された。

Region (地域)

▼Region (地域)

私たちは、地球に住むが、少し限定すれば地域に住む。さらに限定すれば、街や家に住む。自身の存在を明確にすれば、リビングにあるテーブル

「至」が用いられ、着に当たり、着駅・着時刻を「至京都14:44」などと表記された。

Ecoogy (エコロジー)

▼Ecoogy (エコロジー)

ここで重要なことは、宇宙開発が進められても、地球の存在と価値を軽視することは出来ない。私たち人間が、共同して住む地球は、「奇跡の惑星」であり、唯一無二の存在であるとの思い

「利」があるとすると、平穩ではない。

Nature (自然)

▼Nature (自然)

人間は、「しぜん」とも読むが、「しぜん」とも読まれる。「自」は、始まりという意味であり、英語ではfromで、発に当たる。電車の時刻表でも、かつては発駅・発時刻を表すのに「自東京12:30」などと表記された。

次回からも、グリーンにまつわる話題を、続編として記していきたい。

Ecoogy (エコロジー)

▼Ecoogy (エコロジー)

善・美・利」は、その場合に重要となる。AIや知的ロボットの存在は、人間の能力を超える状況となっている。結果、その対象物の開発や適用ばかりでなく、そうした社会で暮らす人間の生き方

「利」があるとすると、平穩ではない。

Region (地域)

▼Region (地域)

私たちは、地球に住むが、少し限定すれば地域に住む。さらに限定すれば、街や家に住む。自身の存在を明確にすれば、リビングにあるテーブル

「利」があるとすると、平穩ではない。

Ethics (倫理)

▼Ethics (倫理)

最近では、地域や国を超えて、国際的な関わりが、暮らしや憩いを提供することになった。その担い手が、デジタルや

「利」があるとすると、平穩ではない。

連載

人間の要求は、さまざまである。筆者の知る美学・哲学の論者は「真・善・美・利」であると述べている。末尾には「理」ではなく「利」を掲げている。なるほど、利を求めて、人類は、生きていく。それは、経済と名を交えたりし、結果、最悪には、戦争になったり

危惧の念をもつ。しかし、グリーンにさ

私たちが、地球に住むが、少し限定すれば地域に住む。さらに限定すれば、街や家に住む。自身の存在を明確にすれば、リビングにあるテーブル

「利」があるとすると、平穩ではない。

「利」があるとすると、平穩ではない。

「利」があるとすると、平穩ではない。

「利」があるとすると、平穩ではない。